

令和8年4月1日

建築学部建築学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

N o	名称	対象	時期・頻 度	学年	主な質問 項目	実施責 任部署	結果の活用方法 学部	自己点検・評価報告書 主な対応基準案
1	卒業論文・卒業研究等 ルーブリック	DP2-1, DP2-2, DP3, DP4	毎年度 末等	卒業学 年	卒業論文・ 卒業研究 等の学修 成果	教務委 員会	各系で毎年評価の適正を確認して、教務委員会に報告する。 教務委員会にて学部全体の適正について検討する。	基準4評価項目③ 等

2	卒業アンケート	DP2-1, DP2-2, DP3, DP4	毎年度末等	卒業学年	学修経験、学修行動、修得した能力、大学の満足度	教務委員会	アンケート結果を教務委員会にて検証して、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。	基準4評価項目③等
3	学部長会談	CP, DP4	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する要望等	学生委員会	学生部で集約した意見を教室会議に報告して、学生委員会で検討する。	基準4評価項目② 基準4評価項目④ 基準7評価項目① 基準8評価項目①等
4	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	教務委員会	結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用する。	基準4評価項目②等
5	成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期1回(成績不振)、随時(休退)	全学年	学業不振の状況(GPA、修得単位数、留年者)	教務委員会	学業不振、出席不振、留年者、退学者については、面談を実施しており、教室会議で学業不振、留年者の情報を報告して、教務委員会で検討する。	基準7評価項目①等

			学)		数)、休学者数、退学者数			
6	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	教養・基礎教育部門	入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用する。	基準4 評価項目③ 等
7	講演会のアンケート・感想文	CP	毎年	全学年	講演内容の理解度	教務委員会	建築実務教育の充実のための取り組みとして、学生の関心あるテーマ・業界・職種の把握、理解度を確認して、カリキュラムの改善や学修支援、学修環境の充実に活用する。	基準4 評価項目② 基準7 評価項目① 等
8	就職説明会	DP3 DP4	毎年	2・3年	出席率	就職対策委員会	学生の志望傾向・準備状況の把握、建設業界の仕事（企業形態、職種など）の就職活動前教育を実施する。	基準7 評価項目① 等
9	就職決定率	DP3 DP4	毎年度末等	4年	就職先、就職活動内容	就職対策委員会	就職決定率から就職説明会や就職情報の提供などの就職指導の効果を計り改善を図る。	基準7 評価項目① 等
10	コンタクトシート	CP	毎年	全学年	演習系科目の理解度	教務委員会	演習系科目の学生の理解度を教員間で情報共有して、学生の理解度を踏まえた適切な学修サポートを実施する。	基準4 評価項目③ 等
11	一級建築士試験	DP2-1,	毎年度末等	卒業学年	合格者数	教務委員会	一級建築士試験対策講座やカリキュラムの適切性を判断する指標として、改善方を検討する。	基準4 評価項目③ 等

	験	DP2- 2, DP3						
--	---	-------------------	--	--	--	--	--	--